

第72回全国男鹿駅伝競走大会

【出場結果】

実施日：6月28日（土） 8時30分スタート

コース：男鹿総合運動公園～なまはげ直売所～八望台～入道崎～戸賀コミュニティセンター～加茂(桜島駐車場)～椿漁港～男鹿総合運動公園

総距離：7区間 64.8km

成績：3時間25分41秒 1/28位

出場者・リザルト：

1区	8.7km	小野 修平	1/28位	27'05"	(区間賞)
2区	6.0km	下田 大翔	1/28位	20'34"	(区間賞)
3区	8.1km	親崎 達朗	2/28位	24'37"	
4区	9.2km	関口 大樹	2/28位	29'20"	
5区	7.5km	三浦 剛	2/28位	25'10"	
6区	11.8km	救仁郷弓揮	1/28位	37'33"	(区間賞)
7区	13.5km	坪井 響己	1/28位	41'18"	(区間賞)

【レポート】

今回大会の行われた秋田県男鹿市は、男鹿半島に伝わる伝統行事「男鹿のナマハゲ」が、国の重要無形民俗文化財に指定、ユネスコ無形文化遺産にも登録されており、男鹿半島の文化や歴史を象徴する存在として、地域全体に根付いており、古き良き日本の文化が感じられる地域です。

その男鹿市が夏の一大イベントとして開催する第72回の歴史を刻む男鹿駅伝競走大会ですが、大学の部5チーム、高校の部7チームを招待し全国から多くの高校・大学のチームが出場する大会となり、当社も一般の部「連覇」を狙ってレースに臨みました。

今年度は駅伝のコースが従来とは逆走のコース設定となり、各区間の距離も新たに設定されることとなりましたが、男鹿駅伝特有の勾配が多いコースであることには変わらず、選手達にはメンタル的にもフィジカル的にもタフさが求められる大会となります。

スタート時のコンディションは曇りで例年選手達を苦しめる強い日差しが少ない分、走りやすい中で、午前8時30分に大学の部11チーム、一般の部28チームが男鹿総合運動公園を一齐にスタートしました。



大学の部・一般の部の選手が一齐にスタート！

1区は8.7kmの距離となり、3km以降は厳しい勾配が続くため、前半で力を使ってしまうと、後半に失速を招く恐れがある難しい区間となります。

1区に起用した小野は、これまで苦手としていたロードでの走りにフォーカスを当ててトレーニングを積み、直前のロードでのタイムトライアルで好走を見せていたことから、今回の起用となりました。

序盤から青山学院大学・中央大学・東洋大学といった箱根駅伝の常連校の選手が先頭集団を形成する中、第2集団で落ち着いた走りを見せると、中盤以降も軽快なピッチは衰えず、急勾配の坂も力強く走り切り、切れ味のあるラストスパートを見せて、大学の上位チームには離されたものの、一般の部では後続を30秒近く離す好走を見せて2区の下田に襷を渡しました。



1区で好走を見せた小野

2区は6.0kmと全区間で最短区間となり、コースの後半は中継所のある八望台まで急勾配が続き、登り坂での走りが重要となる区間です。

2区には新人の下田を起用し、5000mで13分台の記録を持つスピードランナーではあるものの、入社以来、生活のリズムが一変したことで、万全な状態ではありませんでしたが、秋の東日本実業団駅伝では主要区間を任せたい想いもあり、敢えて駅伝の流れを決める重要な前半区間で起用しました。

下田は序盤の下り坂を利用して勢いよく走りだすと、大学の部の選手と競り合いながらリズムを刻み、八望台に続く急勾配に差し掛かったあたりから、登り坂に苦しむ場面もありましたが、前半の貯金を活かして3区の親崎に襷を繋ぎ、一般の部では区間賞の走りで後続を更に引き離す走りをしてくれました。

下田には今回の走りをきっかけに本来の力を取り戻してくれることを期待したいと思います。



序盤から積極的な走りを見せてくれた下田

3区は元々、チームのエース格である小林の起用を予定していましたが、レース前日に次週に行われる日本選手権 1500mのエントリーが決まり、急遽、親崎の出走を決めました。

親崎は昨年11月に練習時の転倒による捻挫の影響から身体のバランスを崩し、本来のコンディションとは程遠い状態でしたが、チームに貢献したい強い気持ちで走るようになりました。



久しぶりのレースで安定感のある走りを見せた親崎

3区は中継所のある八望台からの下り坂が続き、コース全体が下り基調となりますが、如何にブレーキをかけずに下り坂を駆け降りられるかがポイントとなり、身体に違和感を抱える親崎は安全運転でのスタートを余儀なくされ、後続から勢いよく走りだした大学のチームに序盤から差をつけられましたものの、下り坂がなだらかになった中盤以降は本来の走りを取り戻し、前方で競り合う大学のチームを視野に入れながらテンポの良いピッチを刻み、入道崎の中継所で待つ4区の関口に力強い走りで襷を渡しました。

親崎は序盤を抑えて走ったため、一般の部では区間2位の走りでしたが、久しぶりにレース復帰することが出来、秋の東日本実業団駅伝を見据えると収穫のある走りを見せてくれました。



ロードに強い走りを見せた関口

親崎から襷を受けた4区の関口は、前方に見える大学のチームを視野に入れ、序盤から勢いのある走りを見せましたが、3km以降に苦しい表情を見せ始めると、大学のチームとの距離が広がりだし、中盤以降は我慢の走りが続きました。

気持ちで走る関口は、会社関係者の熱い声援で息を吹き返し、最後は気持ちのいったラストスパートを見せて5区の三浦に襷を渡しました。

中盤の失速が響き、僅かの差で一般の部の区間賞を逃しましたが、気持ちのこもった走りを見せてくれました。

5区に起用された三浦は、昨年に区間賞の快走を見せたコースを逆走する形となり、コースの特徴でもあった海岸沿いに向かつての急な下り坂が、今年は逆コースのため、壁とも感じられる急な登り坂となり、ここが結果を左右する重要なポイントと頭に入れてレースに臨みました。

三浦はがっしりとした力強いフォームで序盤から中盤に続く海岸沿いをリズム良く走り出し、前方を走る大学のチームとの差を詰めながら、コースの山場である S 字カーブの急な登り坂に入りました。

ここで一気に視界に捉えていた大学チームを抜き去りたかったのですが、三浦も苦しい走りとなり、最後は数秒差まで距離を詰めて 6 区の救仁郷に襷を渡しました。

三浦も、関口に続き好走はしたものの、一般の部で僅かに区間賞を逃す区間 2 位となりました。



冷静沈着な走りで急勾配のコースを走りきった三浦

6 区は男鹿駅伝の中で最難関区間となっており、200m以上の急勾配が続き全国的に見ても他に類を見ないコース設定となっています。

各チームともエース級の選手を起用する区間であり、当社もチームで一番勢いのある救仁郷を起用しました。

救仁郷は数秒前にいた大学のチームに序盤で追いつき、その差を一気に広げるかと思われましたが、各大学ともに力のある選手を起用していることもあり、序盤から中盤にかけては激しい競り合いとなりました。

中盤以降は救仁郷が力のある走りを見せて、その差を一気に広げると、更に前を走る大学のチームとも距離が縮まり、そのチームもラスト 3km で抜き去り、後続との差を広げてアンカーの坪井に襷を繋ぎました。

救仁郷はトラックレースでの勢いをそのままに、一般の部で区間賞の走りを見せ、駅伝でもチームのエース格として、しっかりと役割を果たしてくれました。



最難関区間を勢いよく疾走した救仁郷

アンカーに起用した坪井は、今年からチームのキャプテンを務める中、自身としても 10000 mで 28 分台の記録を出し、この一年で大きく成長し 6 区を走った救仁郷とともに走りてチームを盛り上げてくれています。

坪井は、入りの 1 kmを 2 分 50 秒程のペースで突っ込むと、10 kmまで 2 分 55 秒～3 分 02 秒程のペースで走る力強さを見せて、前方を走る大学のチームとの距離を一気に縮める好走を見せました。

ラスト 1 kmで大学の部で区間賞を獲得した選手に抜かれましたが、一般の部では断トツの区間賞の走りを見せて、大会連覇となる歓喜のゴールテープを切りました。



序盤から攻める坪井



一般の部「連覇」達成！！



連覇のガッツポーズ！！

【総括】

結果として昨年に続いて一般の部で「優勝」を飾ることが出来、11月に行われる東日本実業団駅伝を年間最大の目標とする当社にとって、4ヶ月前の夏場に駅伝を経験出来たことはチームとして貴重な経験の場となりました。

今回も当社の半導体マザー工場である秋田新電元の方々に全面的なサポートを頂き、選手・スタッフ共に集中して駅伝に臨むことが出来ました。

フルタイム勤務で競技を行う我々にとって、業務以外でもグループの一体感を感じられることは競技を継続しているからこそ経験出来ることであり、このような場に立ち会えることは今後の社会人生活の中でも大きな財産になることだと感じております。

当日、監督車から選手達へ熱い声援を送って頂いた田中社長、堀口顧問をはじめ、秋田新電元の皆さま、現地でご声援を送って頂いたOB、関係者の皆さまに、この場をお借りして、あらためてお礼申し上げます。

チームとしては、これから夏季トレーニング期間に入りますが、今回出場出来なかった選手を含めて、暑い夏を乗り越えて11月3日に行われる東日本実業団駅伝では、東日本実業団連盟に所属する強化実業団チームに1つでも競り勝てる様なチームに成長して、応援して頂ける皆さまに結果を以って恩返しが出来ればと考えております。

引き続き皆さまの温かいご支援、ご協力の程、何卒宜しくお願い致します。

以 上